

インターンシップ実習レポート

法学部 2年 森本 智子

2013/10/18 提出

0. 序文

本レポートは、私が8月5日～16日に文部科学省 大臣官房 政策課で行った学外実習(インターンシップ)に関する報告書である。この実習で行った業務と成果、実習に対する姿勢、これからの課題などを中心に述べていく。以下は、このレポートの構成である。

- 0. 序文
- 1. 実習の目的
- 2. 実習先の概要と説明
- 3. 実習の日程
- 4. 実習内容
- 5. 実習全体に対する感想
- 6. 結論

1. 実習の目的

今回の実習をした目的は以下の2点である。

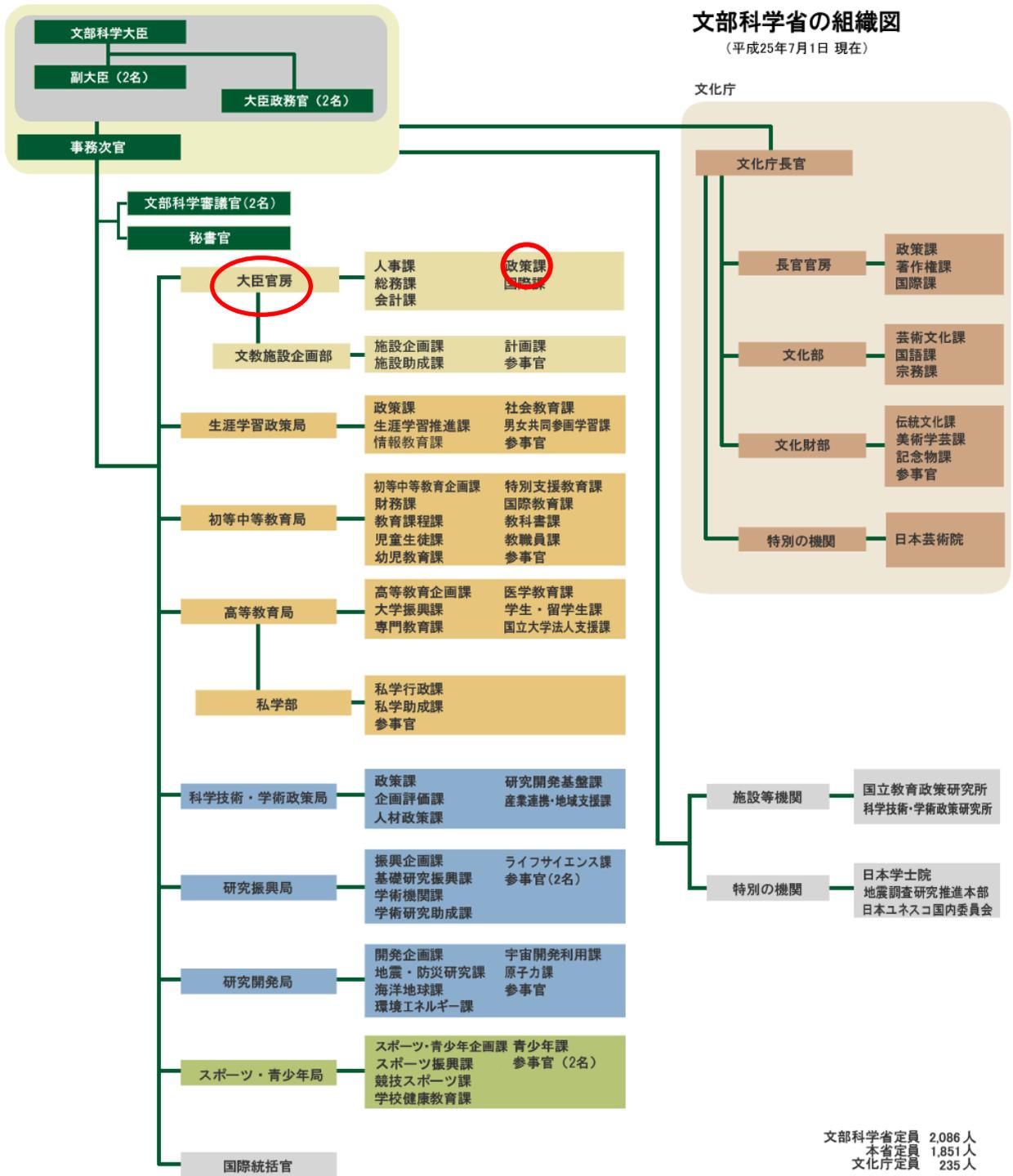
- 実習を通じ、社会人として働く意義を知る。
- 将来の選択肢の一つとして考える国家公務員の仕事を体験し、今何をすべきか等これからの学習に生かす点を見つける。

2. 実習先の概要と説明

- 実習先の文部科学省について説明をする。文部科学省は、1府12省庁のうち、「教育の振興、生涯学習の推進を中核とした豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成、学術、スポーツ及び文化の振興並びに科学技術の総合的な振興を図るとともに、宗教に関する行政事務を適切に行う事を任務とする (文部科学省設置法 3条)」とされている。
- 大臣官房では、文部科学省全体の政策の総合調整を担っており、人事、総務、会計などの一般管理業務のほか、政策評価、情報公開、広報、情報処理、国際関係事務、国際援助協力などの分野での総括事務を行っている。
- 以下の図は、文部科学省の組織図である。

文部科学省の組織図

(平成25年7月1日 現在)



(http://www.mext.go.jp/b_menu/soshiki2/04.htm より)

3、実習の日程

実習の日程と内容を以下に示す。

8月5日(月)	<ul style="list-style-type: none">● 開講式、省内見学● 大臣官房政策課の所管事項説明
8月6日(火)	<ul style="list-style-type: none">● 省庁間・省内の政策の企画・調整に関する業務の補助
8月7日(水)	<ul style="list-style-type: none">● 省庁間・省内の政策の企画・調整に関する業務の補助
8月8日(木)	<ul style="list-style-type: none">● 文部科学省図書館業務● 国立国会図書館見学
8月9日(金)	<ul style="list-style-type: none">● 課内の庶務・経理業務の補助● インターンシップ意見交換会
8月10日(土)	休み
8月11日(日)	休み
8月12日(月)	<ul style="list-style-type: none">● 課内の庶務・経理業務の補助
8月13日(火)	<ul style="list-style-type: none">● 税制に関する業務の補助● 情報システム・行政情報化に関する業務の補助
8月14日(水)	<ul style="list-style-type: none">● 政策評価に関する業務の補助● 独立行政法人評価委員会総会対応(会議の資料準備、会場設営等)
8月15日(木)	<ul style="list-style-type: none">● 政策評価に関する業務の補助● 独立行政法人評価委員会総会対応(会議の資料準備、会場設営等)
8月16日(金)	<ul style="list-style-type: none">● 独立行政法人評価委員会総会対応(会議の資料準備、会場設営等)● インターンシップ意見交換会● 閉講式

(※実質実習期間：10日間)

4、実習内容

以下では、10日間行った実習の内容について示す。実習には、機密性の高いものも含まれておりその部分は省いて書いていく事を予め断っておく。

4-0 所管事項説明

まず始めに、大臣官房政策課で行う業務の説明があった。政策課の中でも、総務係、企画係、調整係、政策評価係、評価委員会係に分かれており、其々の行う業務が分けられていた。政策課では、文部科学省内の総合調整を行っているため、省内の局から回ってきた情報をどの係に回すかを迅速に決める必要があった。

4-1 事務作業

簡単な事務作業として、会議の配布資料の準備(コピーやセットを作る事等)、メールのチェック、資料運び、会議の設営、エクセルファイルの訂正を行った。簡単な仕事であるが迅速にかつ正確に行う事が求められるものであった。事務作業は官庁等役所では特に大事な仕事である。国会と連動する官庁では、資料が必要になった時すぐに見る事が出来るようにするため、全ての資料が余分に置いてあり、一目で分かるようにする等に様々な工夫がされてあった。また、入省 1, 2 年目が行う仕事であった。

4-2 政策評価ヒアリングのメモ取り

メモ取りとは政策評価ヒアリングに傍聴させてもらい、論点や課題点をまとめ文章化するという作業であった。行った仕事全体で一番面白く感じた仕事であった。

- 文部科学省が行う政策評価は、『「行政機関が行う政策の評価に関する法律」に基づき、自らの政策についてその効果を把握し、必要性・有効性・効率性等の観点から評価を実施し、その結果を政策の改善につなげる(PDCA サイクル)と共に、国民に対する説明責任を果たすことを目的として実施』する事である。文部科学省の行う評価において、学識経験者等から助言を得るため、「政策評価に関する有識者会議」を開催している。

3 月頃	翌年度実施する評価に向け、「文部科学省政策評価基本計画(5 年毎)」・「文部科学省政策評価実施計画(毎年)」を策定する。
7~8 月頃	事後評価(実績評価方式)、事前評価(事業評価方式)を実施する。

※ 事後評価...前年度に文部科学省が取り組んだ政策全般について、「文部科学省の使命と政策目標」に定める政策目標(13 本)、施策目標(46 本)に照らし、年度終了後に事後評価を実施し、翌年度予算の概算要求時までに決定・公表する。

評価を行うにあたっては、政策及び施策ごとに、政策目標、施策目標及び達成目標の達成度合い又は達成に向けての進捗状況を把握し、今後の課題を明確にしつつ、翌年度以降の政策への反映方針を明らかにする。

※ 事前評価...翌年度予算の概算要求における研究開発事業、翌年度の税制改正要望にお

ける租税特別措置(法人税、法人事業税、法人住民税に関するもの)、新設・改廃される規制について事前評価を実施し、翌年度予算の概算要求時までに決定・公表する。(※規制については適時)

評価を行うにあたっては、新規に要求等を行う研究開発事業、租税特別措置、規制について、その実施により得ようとする政策効果を具体的に特定し、事前に必要性・有効性・効率性等の観点から実施する。

4-3 会議の傍聴

実習期間中、いくつかの会議を傍聴した。会議では、緊張した雰囲気、資料に目を通しながらメモを取り、分からない点は職員の方に質問するという流れであった。このような会議は、職員の方が入る事の許されない会議などもあり貴重な機会であったと思う。

4-4 図書館実習

文部科学省内にある、文部科学省図書館で業務の補助をした。また、午後に国立国会図書館を見学した。

- 文部科学省図書館は、文部科学省発行物や教育、科学技術、文化等の分野の行政事務遂行上必要となる資料を収集し、閲覧、貸出、レファレンス等のサービスを提供する専門図書館である。国立国会図書館法で国立国会図書館の支部図書館として規定されているため、文部科学省図書館を通して申し込みをすると、国立国会図書館や他省庁図書館所蔵資料の館外貸出、国立国会図書館の事務用複写等のサービスを受けられる。また、納本作業により文部科学省発行物を国立国会図書館に納本する際の窓口にもなっている。

4-5 実習生との意見交換

毎週金曜日に、他局の実習生との意見交換会があった。意見交換会では、一つのテーマで15分程四人班にて話し合いをした後班毎に発表をし、共有した。ここでは、普段実習は一人で行っていたので、他の局ではどのような事を行っているのかを知る貴重な機会であった。

5、実習全体に対する感想

今回の実習に対する感想を以下に述べる。

5-1 社会人として働く事の意義

実習前社会人として働く事の意義は、次のような事だと思っていた。

- お金を稼ぐため(生活をしていくため)に働く。
- 誰か困っている人を助けるため(社会の役に立つため)働く。
- 自分の好きな事をするため働く。

実習を通し、この 3 つの点に加えてさらに増えたと思う。もちろん、働く事の意義の基本軸としてあるのは、生活をするためだと思う。どんな人でも、自分の生活のために働いている。その軸の周りには思いは様々であり、今回実習を通して自分がどのような環境で働きたいのか、そしてどのような思いを持って働きたいのか、という事を考えた。

◇ どのような環境で働きたいか。

私は今回の実習先である、大臣官房政策課はまさに理想的な職場環境であると思う。官庁の仕事は、季節労働ではあるが、残業も多く責任感も重い仕事である。そのため、政策課の職場の雰囲気は上司と部下、同僚同士の間には一定の距離感があり、良い緊張感がある一方で話しやすい柔らかな雰囲気であった。私自身、このような雰囲気の方が実際やりやすく、コミュニケーションも取りやすかったと実感した。

上司の方が、「良い職場作りは、求めるのではなく自分で作っていくものだ」と言っておられた。まさにその通りであり、私も一人で黙々とやる仕事よりも周りの人と協同して行う仕事に就きたい、そして良い職場を作っていきたいと思った。

◇ どのような思いを持って仕事をしたいか。

この問いに対して、はっきりした答えはまだ出ていないというのが、正直な答えである。しかし、実習先で色々な話をしていく中で、自分が一番楽しいと思える事、面白いと思える事を職に就く事が理想的であると思う。実際に、職員の方も官庁の仕事を辞めたいと思った事は無いという答えが多かった。仕事に意味を見出すために、日々勉強し働く事でいつか必ず楽しさや面白さが出てくるようになるのだと思う。

5-2 女性として働く

文部科学省は、他省に比べて女性の割合が多いので、政策課にも女性が多かった。実習中出会った女性の中には、夏から産休を取る人、子育てをしながら働いている人、独身の人等、様々であった。職場に女性が多い事から、男性職員の方も、女性が残業しながら働き家庭と両立する大変さを理解していた。だから、職員の方には女性としての働き方を考える事の重要さも教えていただいた。女性として体験する事は、結婚、出産、子育てと三つの局面がある。仕事との両立を考えるなら、周りの協力が得られなければ、難しい面もある。仕事を続けていくとしたら、職場の協力も得なければならない。このように、仕事と家庭の両立する事は大変難しい事であると思う。女性として将来のためどちらを優先して考えるべきかを今からしっかり考える事も、社会人になるため、そして将来のための準備になると思う。

5-3 進路選択に対する思い

私は、実習前進路選択にとっても悩んでいた。法学部進学前からずっと法曹の道に進む事が夢であったが、大学生活を通じて、人生には色々な選択肢があると感じ、選択肢の一つである官庁で実習を試してみようと思った。

実習先では職員の方と話す機会が多く、就業時間外でも色々な話をしていただき、仕事内容以外にも進路の事などを話す事も多かった。そして、その時に言われた言葉で、「人生で何を一番にするか。そして、何を犠牲にするか。」という言葉がとても心に残っている。「単に、大学を卒業して職に就かなければならないから」という義務感で将来を決めようとせず、自分の人生をしっかりと考えなさいという職員の方の言葉は印象深かった。

実習後、元の生活に戻り人生について考えてみた。官庁での実習経験は私にとって初めて感じる事、考える事が多かったが、実習中自分が楽しいと思える、または仕事にしたいと思えるものが見つかったと思う。今回、そう思えた事を大事にこれからの学習に生かしたい。

6、結論

今回の実習で、得られた事を以下に示す。

- 国家公務員に求められる事を知り、これからの学習に生かせる点を見つける事が出来た。
- 職場の方と話をすることで、将来の職業をどう考えるべきかそして女性としての働き方についても勉強になった。
- 職場での人の接し方、言葉の選び方など普段から考える事の必要性を感じた。